



sponsored by **TOWNWORK**

ファイナリストインタビュー

Campus Life+1 に出て変わったこと

昨年度開催された「Campus Life+1 2018」において、約4万1千通の応募の中から見事選ばれたファイナリストたちのその後をインタビュー。Campus Life+1 を経てどのように彼らが変わったのか聞いてみました。

世界のデファスリートをサポート！ この1年で夢との距離が近づいた

自分に足りないものがわかった ファイナルコンテスト

「キャンパスライフ+1に出場したことで、栄養士としてデファスリートの方々のサポートしたいという夢が、より明確になりました」

そう話すのは、東京農業大学に通う田中さん。デファスリートとは、聴覚に障害を持つアスリートのこと。田中さんはその夢を掲げ、キャンパスライフ+1にエントリーし、見事ファイナリストに選出。ファイナルコンテストでは、堂々と自分の思いをプレゼンできたものの、同時に自分に足りないことも見えてきたという。

「私の場合、自分の知っている知識や

情報の中で物事を考えてしまっていた

した。高校生部門で賞を取った方は、自分の周りの人に事前にアンケートを取っていて、説得力が違つて実感しました」

田中さんは、コンテスト終了後、すぐさまデファスポーツやデファスリートの認知度についてアンケートを実施した。さらに田中さんは、自分の活動の幅を広げるための努力を始めた。

「国際手話を習い始めました。実は普段私たちがよく目にする手話は日本独自のもの。将来、国際大会に携わる時、現地の人とコミュニケーションがとれるよう、習い始めました。いつかデファスポーツの祭典『デフリンピック』で栄養士としてサポートできるよう、これからがんばりたいです」



田中 志穂さん(20歳)
東京農業大学

神奈川県出身。応用生物科学部・栄養科学科に所属。中学、高校時代は幅跳びの選手として活躍。大学に通いながら現在はパン屋やジムでアルバイトをしている。

左が日本語の手話で「名前」。一方、右は国際手話での「name(名前)」。同じ意味でもこんなに見た目が違う。将来国際大会でデファスリートの方々の支えるためには、国際手話を知っているとな便利なのだとか。



▲日本語対応手話の「名前」



▲国際手話の「name(名前)」

Campus Life+1 で得たもの

「まだまだ知名度の低いデファスポーツ。多くの人や審査員を務めてくださる方が、その知名度をわづかではあります。ですが広げられたのはよかったです。また、他のファイナリストの方々の夢の内容やプレゼンを聞き、自分の夢や目標に対してどう取り組めばいいのかヒントを得られました」



応募資格
●現在、大学(院)生、短大生、専門学校生、高校生、高等専門学校生、高等専修学校生の方(20歳未満の方は保護者同意の上ご応募ください) ●日本国内に在住している方。国籍は問いません。 ●団体での応募も歓迎(最終選考出場は1チーム5人までとする) ●2020年3月に東京にて開催予定の最終選考に参加いただける方※詳細は一次選考合格の方へご連絡の際にお知らせいたします。 ●過去に「Campus Life+1」にご応募いただいた方の応募も可能です。

注意事項
●応募における個人情報は主催者及び関係会社のみ開示され、今回の企画以外に使用することはございません。 ●本人(チーム/団体)情報に誤りがある場合は、合格が取り消される場合があります。 ●合否や選考基準に関するお問合せにはお答えできません。ご了承ください。 ●選考通過者の方にはこちらからご連絡いたします。

ご応募はコチラから! 応募はWEBサイトで受け付けています。
右下のURL、2次元バーコードからサイトにアクセスし、必要項目をご記入ください。
<http://entac.jp/>
エンタク 検索

みんなの夢を 随時更新



応募期間: 2019年8月1日(木) ~ 2020年2月2日(日)

主催: **EVAN!**
enjoy talking campus

協賛: **TOWNWORK**

お問い合わせ先: 学生コミュニティサロン「エンタク」
TEL052-241-8100
(受付時間/平日9:00~18:00)

